

今年のゴールデンウィークは、読書三昧。勉強になったのは「歎異抄をひらく」という本でした。司馬遼太郎さんが「無人島に1冊だけ本を持って行くなから『歎異抄』です。」、西田幾多郎先生が「すべての本を焼失しても『歎異抄』が残ればそれでよい。」とまで言われた「歎異抄」ですが、私の古典読解能力では難しい部分も多く、解説書である「歎異抄をひらく」を手に取りました。宗教書のように、これは完全に哲学書であり、全くの無宗教者の私でも興味深く読むことができました。

「歎異抄をひらく」

1 万年堂出版 2008 年 3 月 高森顕徹著